

教育課程等の概要

(医学部保健学科看護学専攻)

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全 学 科 目	基 幹 科 目	思想と倫理の世界	1 前・後		2		○			1	2				兼 3		
		文学の世界	1 前・後		2		○			1	1						
		言語表現の世界	1 前・後		2		○			1	1						
		芸術の世界	1 後		2		○										
		人間と文化	1 前		2		○			1	1						
		歴史と人間社会	1 前・後		2		○			2	1						
		経済と社会	1 前・後		2		○			1	2						
		法・政治と社会	1 前		2		○					1					
		社会の構造	1 後		2		○			1							
		ジェンダーと人間社会	1 後		2		○				1						
		自然界の構造	1 前・後		2		○			13	4			兼 1			
		科学技術とエネルギー	1 後		2		○			8	6	1		兼 1			
		生命と自然	1 後		2		○							兼 1			
		自然と環境	1 後		2		○			6	5						
		科学と情報	1 後		2		○			1				兼 1			
	小計（15科目）		—	0	30	0	—			36	24	2	0	0	兼 6	—	
	育 科 目	展 開 科 目	論理学	2 前・後		2		○				1				兼 1	
			哲学・倫理学	1後・2前・後	2			○			1	2					
			文学	1後・2前・後		2		○				2					
宗教学			1後・2前		2		○			1							
教育学			2 後		2		○				1						
歴史学			1後・2前		2		○			3	1						
言語学			1後・2前		2		○			1	1						
社会学			1後・2前		2		○			3	1						
心理学			1後・2前		2		○			1	2						
法学			2 前		2		○				1						
日本国憲法			2 前		2		○			1							
政治学			1後・2前		2		○			1	1						
経済学			1後・2前		2		○			1	3						
文化人類学			2 前		2		○			1							
人文地理学	2 前		2		○			1									
数学概論 A	1 前・後		2		○							兼 2					
数学概論 B	1 前		2		○			1									
数学概論 C	1 後		2		○				1								

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全 学 教 育 科 目	展 開 科 目	解析学概要		2		○			1	1				兼2	
		解析学A		2		○			8	4		1		兼3	
		解析学B		2		○			5	5		3		兼3	
		解析学C		2		○			4	5		2		兼1	
		解析学D		2		○			3			1		兼1	
		線形代数学概要		2		○			1			2		兼2	
		線形代数学A		2		○			3	2	1	2		兼6	
		線形代数学B		2		○			2	3	1	2		兼5	
		数理統計学		2		○				1					
		物理学概論		2		○			1						
		物理学A		2		○			1	1					
		物理学B		2		○				1					
		物理学C		2		○			1						
		物理学D		2		○				1					
		化学概論		2		○			1	1					
		化学A		2		○			1						
		化学B		2		○			1						
		化学C		2		○						1			
		生命科学概論		2		○			1	1					
		生命科学A		2		○			1						
		生命科学B		2		○			1						
		生命科学C		2		○				1					
		地球システム科学			2	○				2					
		地球物質科学			2	○			1						
		自然地理学			2	○								兼1	
		天文学			2	○			1						
		地球惑星物理学			2	○			3						
		自然科学総合実験		2				○	1						
		総合科目		2		○			33	11	1				
		カレントトピックス科目		2		○			24	18	3				
		現代学問論		2		○			9						
	小計（49科目）		2	86	10	—			124	75	6	14	0	兼27	—
	共通科目	基礎ゼミ		2			○		94	43	5	3			
		英語A 1		1			○		2	4	2			兼1	
		英語A 2		1			○		3	1	1			兼2	
		英語B 1		1			○		2	2	2			兼1	
		英語B 2		1			○		3	2	1			兼2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
全 学 教 育 科 目	共通科目	英語C 1	1				○		1	2	4			兼2
		英語C 2	1				○		5	1	4			兼1
		基礎ドイツ語Ⅰ		2		○			4	3				兼1
		基礎ドイツ語Ⅱ		2		○			4	3				兼1
		展開ドイツ語Ⅰ			2	○								兼2
		展開ドイツ語Ⅱ			2	○				1				兼1
		基礎フランス語Ⅰ		2		○				3				兼1
		基礎フランス語Ⅱ		2		○				3				兼1
		展開フランス語Ⅰ			2	○			1					兼1
		展開フランス語Ⅱ			2	○			1					兼1
		基礎ロシア語Ⅰ	1前・1後	2		○				1				兼1
		基礎ロシア語Ⅱ	1後・2前	2		○				1				兼1
		基礎スペイン語Ⅰ	1前	2		○					1			兼3
		基礎スペイン語Ⅱ	1後	2		○					1			兼3
		基礎中国語Ⅰ	1前	2		○					1			兼5
		基礎中国語Ⅱ	1後	2		○					1			兼5
		基礎朝鮮語Ⅰ	1前・1後	2		○					1			
		基礎朝鮮語Ⅱ	1後・2前	2		○					1			
		ギリシャ語Ⅰ	1前		2	○								兼1
		ギリシャ語Ⅱ	1後		2	○								兼1
		サンスクリット語Ⅰ	1前		2	○								兼1
		サンスクリット語Ⅱ	1後		2	○								兼1
		ラテン語Ⅰ	1前		2	○								兼1
		ラテン語Ⅱ	1後		2	○								兼1
		モンゴル語Ⅰ	1前		2	○			1					
		モンゴル語Ⅱ	1後		2	○			1					
		イタリア語Ⅰ	1前		2	○				1				
		イタリア語Ⅱ	1後		2	○				1				
		チェコ語Ⅰ	1後		2	○				1				
		チェコ語Ⅱ	1後		2	○				1				
		情報基礎A	1前	2		○			3			2		
		スポーツA	1前	1		○				3				
		スポーツB	2前		1	○			2	4	1			
		体と健康	1後	2		○			3	4	1			
		日本語A	1前		1	○			1					兼1
		日本語B	1後		1	○			1					兼1
		日本語C	1前		1	○			1					

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
全 学 教 育 科 目	共 通 科 目	日本語D	1 後		1		○			1						
		日本語E	1 前		1		○			1						
		日本語F	1 後		1		○			1						
		日本語G	1 前		1		○			1						
		日本語H	1 後		1		○			1						
		日本語I	1 前		1		○			1						
		日本語J	1 後		1		○			1						
		小計 (49科目)	—	13	34	33	—			140	85	27	5	0	兼44	—
専 門 教 育 科 目	人 間 の 理 解 科 目	医療解剖学	1 通	2			○			5	1				兼 8	オムニバス
		生体機能学Ⅰ	1 前	1			○			3	1				兼 1	オムニバス
		生体機能学Ⅱ	1 後	1			○			2					兼 3	オムニバス
		代謝学	1 後	2			○								兼 5	オムニバス
		遺伝情報学 ※1	4 後		1		○			1						オムニバス
		免疫学	2 前	2			○			1						オムニバス
		発達心理学	1 前	1			○			1						
		生命倫理	1 後	1			○								兼 1	
		病理学	2 前	2			○			1						
		病原微生物学	1 前	1			○			1						
		臨床薬理学	2 後	2			○			3	2					オムニバス
		家族関係論	3 前	1			○			1						
		公衆衛生学	2 後	1			○			1						
	健 康 の 支 援 科 目	社会保障制度論	3 後	1			○			2						オムニバス
		保健医療福祉行政論	3 前	1			○			2						オムニバス
		国際保健学	4 後	1			○			2						
		健康とジェンダー ※1	2 前		1		○			1						
		食生活論	3 前	1				○		1						
		運動生活論	2 後	1			○			1						
		リハビリテーション学	2 後	1			○			2						
		看護政策論	4 前	1			○			1						
		看護情報学	3 前	1			○			2						オムニバス
		医療経済学	4 後		1		○								兼 1	
		看護管理学	4 後	1			○			1						
		看護教育学	4 後	1			○				1					
		小計 (25科目)	—	27	3	0	—			11	5	0	0	0	兼20	—

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考	
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専 門 教 育 科 目	看護 基 幹 科 目	看護学原論Ⅰ	1 前	1				○			1						オムニバス オムニバス
		看護学原論Ⅱ	1 後	1				○			1						
		看護技術論Ⅰ	2 前	1				○			1						
		看護技術論Ⅱ	2 通	2					○		1		1	2			
		看護技術論Ⅲ	3 前	1					○		1		1	2			
		看護技術論Ⅳ	3 前	1				○				1					
		看護研究原論	3 前	1				○			1						
		基礎看護学実習Ⅰ	1 後	1						○	2		1		2		
		基礎看護学実習Ⅱ	2 後・3 前	2						○	2		1		2		
	専 門 攻 専 門 展 開 目 科 目	成人看護学原論	2 前	1				○			1						オムニバス
		成人看護方法論Ⅰ	2 後	2				○			1						
		成人看護方法論Ⅱ	3 前	2				○			1						
		成人看護学実習Ⅰ	3 後・4 前	3						○	1	1		2			
		成人看護学実習Ⅱ	3 後・4 前	3						○	1	1		2			
		老年看護学原論	2 前	1				○			1						
		老年看護方法論	2 後	2				○			1						
		老年看護学実習	3 後・4 前	3						○	1		1		1		
		小児看護学原論	2 前	1				○			1						
		小児看護方法論	2 後・3 前	2				○			1						
		小児看護学実習	3 後・4 前	2						○	1			2			
		精神看護学原論	2 後	1				○			1						
		精神看護方法論	3 前	2				○			1						
		精神看護学実習	3 後・4 前	2						○		1		1			
		女性健康科学原論	2 後	1				○			1						
		母性看護方法論	3 前	2				○			1	1					
		母性看護学実習	3 後・4 前	2				○			1	1		1			
		地域看護学原論	2 前	1				○			1						
		地域看護方法論Ⅰ	2 後	2				○			1	1					
		地域看護方法論Ⅱ	3 前	2				○			1						
		地域看護方法論Ⅲ	3 前	1				○			1	1					
		地域看護学実習Ⅰ	2 前	1						○	1	1		2			
		地域看護学実習Ⅱ	3 後・4 前	3						○	1	1		2			
		在宅看護論	3 前	1				○			1						
		助産学原論 ※1	3 前		1			○			1	1		1			オムニバス
		助産診断学 ※1	3 後		2			○			1			1			オムニバス
		助産技術学 ※1	3 後・4 前		3			○			1	1		1			オムニバス
		助産管理論 ※1	4 後		1			○			1	1		1			オムニバス
		新生児看護論 ※1	3 前		1			○			1	1					助産師の国家 試験受験資格 を希望する者 は※1の科目 は必修となる。
		助産学実習 ※1	4 通		6					○	1	1		1			

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	専攻専門科目	総合科目	総合看護学実習	4 通	3					○	11	5	2	10	2	オムニバス	
			チーム医療	4 後	1					○	3		1				
			卒業研究	3 後～4 通	3					○	11	5	2	10	2		
			小計（42科目）	—	61	14	0	—			11	5	2	10	4	0	—
合計（180科目）				—	103	167	43	—			311	189	37	29	4	兼97	—
学位又は称号			学士（看護学）		学位又は学科の分野				保健衛生学関係								
卒業要件及び履修方法									授業期間等								
本学科に4年以上在学し、全学教育科目41単位以上及び専門教育科目88単位以上（必修の専門基礎科目27単位及び必修の専攻専門科目61単位を含む。）の計129単位以上を修得すること。									1 学年の学期区分						2 学期		
									1 学期の授業期間						15週		
									1 時限の授業時間						90分		

教育課程等の概要

(医学部保健学科放射線技術科学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
全 学 科 目	思想と倫理の世界	1前・後		2		○			1	2				兼3
	文学の世界	1前・後		2		○			1	1				
	言語表現の世界	1前・後		2		○			1	1				
	芸術の世界	1後		2		○								兼3
	人間と文化	1前		2		○			1	1				
	歴史と人間社会	1前・後		2		○			2	1				
	経済と社会	1前・後		2		○			1	2				兼1
	法・政治と社会	1前		2		○					1			
	社会の構造	1後		2		○			1					
	ジェンダーと人間社会	1後		2		○				1				兼1
	自然界の構造	1前・後		2		○			13	4				
	科学技術とエネルギー	1後		2		○			8	6	1			
	生命と自然	1後		2		○								兼1
	自然と環境	1後		2		○			6	5				
	科学と情報	1後		2		○			1					
	小計(15科目)	—	0	30	0	—			36	24	2	0	0	兼6
育 展 開 科 目	論理学	2後		2		○				1				兼1
	哲学・倫理学	1・2後		2		○				2				
	文学	1・2後		2		○				2				
	宗教学	1後		2		○			1					兼1
	教育学	2後		2		○				1				
	歴史学	1後		2		○			2	1				
	言語学	1後		2		○			1					兼1
	社会学	1後		2		○			3					
	心理学	1後・2前		2		○			1					
	法学	2前		2		○				1				兼1
	日本国憲法	2前		2		○			1					
	政治学	1後		2		○			1					
	経済学	1後		2		○				1				兼2
	文化人類学	2前		2		○			1					
	人文地理学	2前		2		○			1					
	解析学概要	1後		2		○			1	1				兼2
	解析学A	1前		2		○			1					
	解析学B	1後		2		○						1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学教育科目	解析学C	2前		2		○			4	5		2		兼1	
	解析学D	2前・後		2		○			3			1		兼1	
	線形代数学概要	1前		2		○			1			2		兼2	
	線形代数学A	1前		2		○			3	2	1	2		兼6	
	線形代数学B	1後		2		○			2	3	1	2		兼5	
	数理統計学	2前		2		○				1					
	物理学A	1前		2		○			1	1					
	物理学B	1後		2		○				1					
	物理学C	2前		2		○			1						
	物理学D	2前		2		○				1					
	化学A	1前		2		○			1						
	化学B	1後		2		○			1						
	化学C	1後		2		○						1			
	生命科学概論	1前・後		2		○			1	1					
	生命科学A	1前		2		○			1						
	生命科学B	1後		2		○			1						
	生命科学C	2前		2		○				1					
	地球システム科学	1前			2	○				2					
	地球物質科学	1前			2	○			1						
	自然地理学	1後			2	○								兼1	
	天文学	2前			2	○			1						
	地球惑星物理学	2前			2	○			3						
	自然科学総合実験	1前		2				○	1						
	総合科目	1前・後		2		○			33	11	1				
	カレントトピックス科目	1前・後		2		○			24	18	3				
	現代学問論	1前・後		2		○			9						
	小計（44科目）	—	0	78	10	—	—	—	106	57	6	11	0	兼19	—
共通科目	基礎ゼミ	1前	2				○		94	43	5	3			
	英語A 1	1前	1				○		2	4	2			兼1	
	英語A 2	1後	1				○		3	1	1			兼2	
	英語B 1	1前	1				○		2	2	2			兼1	
	英語B 2	1後	1				○		3	2	1			兼2	
	英語C 1	2前	1				○		1	2	4			兼2	
	英語C 2	2後	1				○		5	1	4			兼1	
	基礎ドイツ語Ⅰ	1前		2		○			4	3				兼1	
	基礎ドイツ語Ⅱ	1後		2		○			4	3				兼1	
	展開ドイツ語Ⅰ	2前			2	○								兼2	
	展開ドイツ語Ⅱ	2後			2	○				1				兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
全 学 教 育 科 目	基礎フランス語Ⅰ	1前		2		○				3				兼1
	基礎フランス語Ⅱ	1後		2		○				3				兼1
	展開フランス語Ⅰ	2前			2	○			1					兼1
	展開フランス語Ⅱ	2後			2	○			1					兼1
	基礎ロシア語Ⅰ	1前・1後		2		○				1				兼1
	基礎ロシア語Ⅱ	1後・2前		2		○				1				兼1
	基礎スペイン語Ⅰ	1前		2		○					1			兼3
	基礎スペイン語Ⅱ	1後		2		○					1			兼3
	基礎中国語Ⅰ	1前		2		○					1			兼5
	基礎中国語Ⅱ	1後		2		○					1			兼5
	基礎朝鮮語Ⅰ	1前・1後		2		○					1			
	基礎朝鮮語Ⅱ	1後・2前		2		○					1			
	共 通 科 目	ギリシャ語Ⅰ			2	○								兼1
		ギリシャ語Ⅱ			2	○								兼1
		サンスクリット語Ⅰ			2	○								兼1
		サンスクリット語Ⅱ			2	○								兼1
		ラテン語Ⅰ			2	○								兼1
		ラテン語Ⅱ			2	○								兼1
		モンゴル語Ⅰ			2	○			1					
		モンゴル語Ⅱ			2	○			1					
		イタリア語Ⅰ			2	○				1				
		イタリア語Ⅱ			2	○				1				
		チェコ語Ⅰ			2	○				1				
		チェコ語Ⅱ			2	○				1				
		情報基礎A	2			○			3			2		
		スポーツA	1			○				3				
		スポーツB			1	○			2	4	1			
		体と健康	2			○			3	4	1			
		日本語A		1		○			1					兼1
		日本語B		1		○			1					兼1
		日本語C		1		○			1					
		日本語D		1		○			1					
		日本語E		1		○			1					
		日本語F		1		○			1					
		日本語G		1		○			1					
		日本語H		1		○			1					
		日本語I		1		○			1					
		日本語J		1		○			1					
	小計(49科目)	—	13	34	33	—			140	85	27	5	0	兼44

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考	
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専 門 教 育 科 目	専 門	人 体 の 構 造 と 機 能	医療解剖学	1 通	2			○			5	1				兼 8	オムニバス
			生体機能学Ⅰ	1 前	1			○			3	1				兼 1	オムニバス
			生体機能学Ⅱ	1 後	1			○			2					兼 3	オムニバス
			総合医用画像解剖学	2後・3前	3			○			1						
			医化学	2 後	1			○								兼 5	
	基 礎 科 目	健 康 と 福 祉 ・ 疾 病 と 医 療	医療概論	1 前	1			○			1						
			放射線医学	1後・2前	3			○			1						
			チーム医療	4 後	1			○			3		1				オムニバス
			総合医療演習	4 前	1				○		3		1				
			生命倫理学	1 後		1		○								兼 1	
			病理学	2 前	1			○			1						
			臨床免疫学	2 前	1			○			1					兼 1	オムニバス
			公衆衛生学	2 後	1			○			1						
			放射線衛生学	3 前		1		○						1			
	小計（14科目）			—	17	2	0	—			6	1	1	1	0	兼18	—
	専 門 科 目	放 射 線 計 測 ・ 管 理 学	放射線物理学Ⅰ	1 前	1			○			1						
			放射線物理学Ⅱ	2 前	1			○			1						
			放射線物理学Ⅲ	2 後	1			○			1						
			放射線計測学Ⅰ	2 後	1			○				1					
			放射線計測学Ⅱ	3 前	1			○				1					
放射線計測学実験			2後・3前・4後	1				○					1		兼 1		
放射線化学			2 後	1			○								兼 1		
放射化学			2 通	3			○								兼 1		
放射化学実験			2後・3前・4後	1				○		1							
放射線管理学			3 前	2			○						1				
放射線管理測定学実験			2後・3前・4後	1				○					1				
診療放射線技師関係法規			3 後	1			○				1						
医 用 理 工 学			電気工学基礎論	1 後	1			○				1					
		医用電気回路学	2 前	1			○				1						
		電気工学実験	2後・3前・4後	1				○		1	1						
		医用電子工学概論	2 前	1			○			1							
		医用電子回路学	2 後	1			○			1							
		医用電子工学実験	2後・3前・4後	1				○		1							
		自動制御工学基礎論	2 後	1			○				1						
自動制御工学実験		2後・3前・4後	1				○			1							
エックス線機器学Ⅰ	2 後	1			○				1								
エックス線機器学Ⅱ	3 前	1			○				1				兼 1				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	医用理工学	放射線技術学実験Ⅰ	2後・3前・4後	1				○		1		2			
		放射線技術学実験Ⅱ	2後・3前・4後	1				○		1		2			
		MRⅠ基礎工学	3後	1		○			1						
		医用統計学	2後		2		○		1						
		応用数学Ⅰ	2前	1		○			1						
		応用数学Ⅱ	2後	1		○			1	1					
	撮影技術学	臨床撮影技術学Ⅰ	2前	1		○						2		兼2	オムニバス
		臨床撮影技術学Ⅱ	2後	1		○						1		兼4	オムニバス
		総合画像診断技術学	3前	1		○			1					兼5	オムニバス
		総合画像診断技術学演習	2後・3前・4後	1				○	3			1			
		医用写真学	2前	1		○						2			オムニバス
		画像工学Ⅰ	2後	1		○						1			
		画像工学Ⅱ	3後	1		○						1			
		画像工学実験	2後・3前・4後	1				○				1			
		画像診断学Ⅰ	3後	1		○			1						
		画像診断学Ⅱ	4前	1		○			1					兼3	オムニバス
		MRⅠ撮像技術学	3前	1		○			1					兼5	オムニバス
		核医学検査技術学	3前	1		○						1		兼3	
		核医学実習Ⅰ	3後	1				○				2		兼3	
		核医学実習Ⅱ	4前	1				○				2		兼3	
		核医学Ⅰ	3前	1		○						1			
		核医学Ⅱ	3後		2	○						2			
		放射線検査学実習Ⅰ	3後	2				○	3	1		4			
		放射線検査学実習Ⅱ	3後・4前	4				○	3	1		4			
	放射線治療技術学	放射線生物学	2後	1		○			1			1		兼1	オムニバス
		放射線治療技術学	3前	2		○			1						オムニバス
		放射線治療技術学実習	4前	1				○	1			1			
		放射線腫瘍学	3後	1		○			1						
		放射線治療計画技術学演習	4後	1			○		1						
		放射線治療計画技術学実習	3後	1				○	1						
		放射線治療システム工学	4前	1		○								兼2	
	情報科学	医用情報科学演習Ⅰ	3前	1			○			1					
		医用情報科学演習Ⅱ	3後	1			○		1						
	医用画像情報分析学	医用デジタル画像システム工学Ⅰ	3後	1		○			1						
		医用デジタル画像システム工学Ⅱ	3後	1		○			1						
		超音波技術学	3前	1		○								兼1	
		医用デジタル画像処理学	4後		2	○			1			1			オムニバス

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	専攻専門科目	放射線技術科学研究	卒業研究	4 後	4				○		6	3		4			
		小計（60科目）		—	68	6	0	—			6	3	0	4	0	兼36	—
		合計（182科目）		—	98	150	43	—			288	169	35	20	0	兼123	—
学位又は称号			学士（保健学）		学位又は学科の分野				保健衛生学関係								
卒業要件及び履修方法									授業期間等								
本学科に4年以上在学し、全学教育科目41単位以上及び専門教育科目85単位以上（必修の専門基礎科目17単位及び必修の専攻専門科目68単位を含む。）の計126単位以上を修得すること。									1 学年の学期区分					2 学期			
									1 学期の授業期間					15週			
									1 時限の授業時間					90分			

教育課程等の概要

(医学部保健学科検査技術科学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
全学教育科目	思想と倫理の世界	1前・後		2		○			1	2				兼3
	文学の世界	1前・後		2		○			1	1				
	言語表現の世界	1前・後		2		○			1	1				
	芸術の世界	1後		2		○								兼3
	人間と文化	1前		2		○			1	1				
	歴史と人間社会	1前・後		2		○			2	1				
	経済と社会	1前・後		2		○			1	2				兼1
	法・政治と社会	1前		2		○					1			
	社会の構造	1後		2		○			1					
	ジェンダーと人間社会	1後		2		○				1				兼1
	自然界の構造	1前・後		2		○			13	4				
	科学技術とエネルギー	1後		2		○			8	6	1			
	生命と自然	1後		2		○								兼1
	自然と環境	1後		2		○			6	5				
	科学と情報	1後		2		○			1					
	小計(15科目)	—	0	30	0	—	—	—	36	24	2	0	0	兼6
専攻科目	論理学	2後		2		○				1				兼1
	哲学・倫理学	1・2後		2		○				2				
	文学	1・2後		2		○				2				
	宗教学	1後		2		○			1					兼1
	教育学	2後		2		○				1				
	歴史学	1後		2		○			2	1				
	言語学	1後		2		○			1					兼1
	社会学	1後		2		○			3					
	心理学	1後・2前		2		○			1					
	法学	2前		2		○				1				兼1
	日本国憲法	2前		2		○			1					
	政治学	1後		2		○			1					
	経済学	1後		2		○				1				兼2
	文化人類学	2前		2		○			1					
	人文地理学	2前		2		○			1					
	解析学概要	1後		2		○			1	1				兼2
	解析学A	1前		2		○			8	4		1		兼3
	解析学B	1後		2		○			5	5		3		兼3

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学教育科目	解析学C	2前		2		○			4	5		2		兼1	
	解析学D	2前・後		2		○			3			1		兼1	
	線形代数学概要	1前		2		○			1			2		兼2	
	線形代数学A	1前		2		○			3	2	1	2		兼6	
	線形代数学B	1後		2		○			2	3	1	2		兼5	
	数理統計学	2前		2		○				1					
	物理学A	1前		2		○			1	1					
	物理学B	1後		2		○				1					
	物理学C	2前		2		○			1						
	物理学D	2前		2		○				1					
	化学A	1前		2		○			1						
	化学B	1後		2		○			1						
	化学C	1後		2		○						1			
	生命科学概論	1前・後		2		○			1	1					
	生命科学A	1前		2		○			1						
	生命科学B	1後		2		○			1						
	生命科学C	2前		2		○				1					
	地球システム科学	1前			2	○				2					
	地球物質科学	1前			2	○			1						
	自然地理学	1後			2	○								兼1	
	天文学	2前			2	○			1						
	地球惑星物理学	2前			2	○			3						
	自然科学総合実験	1前		2				○	1						
	総合科目	1前・後		2		○			33	11	1				
	カレントトピックス科目	1前・後		2		○			24	18	3				
	現代学問論	1前・後		2		○			9						
	小計(44科目)	—	0	78	10	—	—	—	118	66	6	14	0	兼19	—
共通科目	基礎ゼミ	1前	2				○		94	43	5	3			
	英語A1	1前	1				○		2	4	2			兼1	
	英語A2	1後	1				○		3	1	1			兼2	
	英語B1	1前	1				○		2	2	2			兼1	
	英語B2	1後	1				○		3	2	1			兼2	
	英語C1	2前	1				○		1	2	4			兼2	
	英語C2	2後	1				○		5	1	4			兼1	
	基礎ドイツ語Ⅰ	1前		2		○			4	3				兼1	
	基礎ドイツ語Ⅱ	1後		2		○			4	3				兼1	
	展開ドイツ語Ⅰ	2前			2	○								兼2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
全 学 教 育 科 目	共 通 科 目	展開ドイツ語Ⅱ			2	○				1				兼1
		基礎フランス語Ⅰ		2		○				3				兼1
		基礎フランス語Ⅱ		2		○				3				兼1
		展開フランス語Ⅰ			2	○			1					兼1
		展開フランス語Ⅱ			2	○			1					兼1
		基礎ロシア語Ⅰ	1前・1後	2		○				1				兼1
		基礎ロシア語Ⅱ	1後・2前	2		○				1				兼1
		基礎スペイン語Ⅰ	1前	2		○					1			兼3
		基礎スペイン語Ⅱ	1後	2		○					1			兼3
		基礎中国語Ⅰ	1前	2		○					1			兼5
		基礎中国語Ⅱ	1後	2		○					1			兼5
		基礎朝鮮語Ⅰ	1前・1後	2		○					1			
		基礎朝鮮語Ⅱ	1後・2前	2		○					1			
		ギリシャ語Ⅰ	1前		2	○								兼1
		ギリシャ語Ⅱ	1後		2	○								兼1
		サンスクリット語Ⅰ	1前		2	○								兼1
		サンスクリット語Ⅱ	1後		2	○								兼1
		ラテン語Ⅰ	1前		2	○								兼1
		ラテン語Ⅱ	1後		2	○								兼1
		モンゴル語Ⅰ	1前		2	○			1					
		モンゴル語Ⅱ	1後		2	○			1					
		イタリア語Ⅰ	1前		2	○				1				
		イタリア語Ⅱ	1後		2	○				1				
		チェコ語Ⅰ	1後		2	○				1				
		チェコ語Ⅱ	1後		2	○				1				
		情報基礎A	1前	2		○			3			2		
		スポーツA	1前	1		○				3				
		スポーツB	2前		1	○			2	4	1			
		体と健康	1後	2		○			3	4	1			
		日本語A	1前	1		○			1					兼1
		日本語B	1後	1		○			1					兼1
		日本語C	1前	1		○			1					
		日本語D	1後	1		○			1					
		日本語E	1前	1		○			1					
		日本語F	1後	1		○			1					
		日本語G	1前	1		○			1					
		日本語H	1後	1		○			1					
		日本語I	1前	1		○			1					
		日本語J	1後	1		○			1					
		小計(49科目)	—	13	34	33	—		140	85	27	5	0	兼44

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	免疫検査学系	免疫学概論	2 後	1			○			1					兼 6	オムニバス	
		免疫学基礎実習	3 後	1				○		1							
		感染免疫検査学	3 前	1			○				1						
		免疫検査技術学	3 前	1			○			1							
		免疫検査学実習	3 後	1					○		1		1				
		輸血・移植免疫学	3 通	2			○			1							
		生体防御学	4 前		1		○			1							
	血液検査学系	血液学概論	2 後	1			○			1							
		臨床血液学	3 通	2			○			1							
		臨床血液学実習	3 後	2					○	1							
	生理検査学系	循環生理学	2 後	1			○				1				オムニバス オムニバス		
		呼吸生理学	3 前	1			○			1							
		神経・筋検査学	3 後	1			○			2							
		臨床生理学実習	3 後	2					○	1	1						
		RI 検査技術学	3 前	1			○			2							
		画像検査学	3 前	1			○			1							
		超音波検査学	3 後	1			○				1						
	分子生物学系	分子生物学	3 後	1			○			1							
		遺伝子検査学	3 後		1		○			1							
	病理検査学系	病理検査学	3 後	1			○			1							
		病理検査学実習	3 前	1					○	1			1				
	検査技術科学の管理・実践・展開	臨床検査総論	1 後	1			○								兼 1	オムニバス 兼 1 兼 21 オムニバス	
		自動化機器論	3 後	1			○			2							
		検査管理学	3 後	1			○										
		先端検査学特論	4 前		1		○				1						
		緊急検査学概論	4 後		1		○			1							
		臨地実習	4 通	10			○										
		臨床検査関係法規	4 後	1			○				1						
		専門英語	4 後		1		○			7							
		卒業研究	4 後	6					○	7	3		2				
	小計（47科目）			—	60	7	0	—			7	3	0	2	0	兼 29	—
合計（174科目）			—	95	152	43	—			306	179	35	21	0	兼 111	—	
学位又は称号		学士（保健学）		学位又は学科の分野				保健衛生学関係									
卒業要件及び履修方法								授業期間等									
本学科に 4 年以上在学し、全学教育科目 41 単位以上及び専門教育科目 83 単位以上（必修の専門基礎科目 22 単位及び必修の専攻専門科目 60 単位及び選択の授業科目から 1 単位以上含む。）の計 124 単位以上を修得すること。								1 学年の学期区分					2 学期				
								1 学期の授業期間					15 週				
								1 時限の授業時間					90 分				

授 業 科 目 の 概 要

(医学系研究科保健学専攻博士後期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
共通 必修 科目	健康科学論	(概要) 健康科学、保健学、看護学の研究を遂行するために必要な基礎情報、最新知見について指導する。特に、健康科学、保健学、看護学の研究上の問題点やトピックスに焦点を当てた講義を行う。 (オムニバス方式/全15回) (1 丸山良子/1回) 呼吸・循環器から看護援助技術を評価する方法について教授する。 (4 小林光樹/1回) 肝炎と発がんについて教授する。 (④ 齋藤秀光/1回) 一般科患者の精神的問題とその解決方法について教授する。 (③ 佐藤喜根子/1回) 産褥期にある女性のメンタルヘルスについて教授する。 (10 南 優子/1回) 環境疫学について教授する。 (11 町田好男/1回) MR 画像化技術と画像処理技術について教授する。 (12 石橋忠司/1回) デジタル画像情報学、3次元画像処理技術学を教授する。 (13 齋藤春夫/1回) MDCT の撮像理論、造影剤の使用法などを教授する。 (15 高井良尋/1回) 放射線生物学から高精度放射線治療法までを教授する。 (16 林 慎一/1回) 乳癌とホルモンについて教授する。 (17 川上和義/1回) インフルエンザ等、感染症について教授する。 (19 鈴木 貴/1回) 癌の病理診断について教授する。 (18 高橋和広/1回) ストレスとホルモンについて教授する。 (20 進藤千代彦/1回) 最近問題となっている呼吸器疾患について教授する。 (21 清水律子/1回) 血液疾患の診断と治療の最近の進歩について教授する。	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
共通 選択 科目 目	看護科学方法論	(概要) 看護学における既存の概念や理論を文献検討を含めて分析評価し、看護現象における新たな理論開発や概念構築のための方法論について評価、検討できる能力を養う。(オムニバス方式/全15回) (2 朝倉京子/5回) 概念分析と文献検討方法論について教授する。 (5 吉沢豊子/5回) 質的研究方法論について教授する。 (1 佐藤富美子/5回) 量的研究方法論について教授する。	オムニバス方式
	看護システム管理論	(概要) 臨床および地域における安全管理システムおよび人的資源管理システムについての概念や、包括的保健医療システムの概念と運営方法についての最新の知見を紹介し、現代の医療・保健における看護サービスの質を保証するトップマネジメントの能力を養う。また、学生と教員や学生同士の討議を行い、看護システム管理の概念の理解を深める。(オムニバス方式/全15回) (9 福井トシ子/10回) 臨床における安全管理システム及び人的管理システムについて教授する。 (6 末永カツ子/5回) 地域における安全・人的管理システムや包括的な保健医療システムについて教授する。	オムニバス方式
	分子医科学	(概要) 分子生物学、医化学、分子遺伝学、分子発生学等の基礎医学領域における最新の進歩について講義を行う。(オムニバス方式/全15回) (16 林 慎一/5回) 分子遺伝学における最新の知見について教授する。 (34 五十嵐和彦/5回) 分子生物学、医化学について教授する。 (39 中山啓子/5回) 分子発生学について教授する。	オムニバス方式
	社会・環境医学	(概要) 公衆衛生学、環境医学、法医学、医療情報学等の最新の進歩について講義を行う。(オムニバス方式/全15回) (10 南 優子/5回) 公衆衛生学、環境医学について教授する。 (35 根東義明/5回) 医療情報学について教授する。 (36 舟山真人/5回) 法医学をはじめとする社会医学について教授する。	オムニバス方式
	先端臨床医学	(概要) 内科学、外科学等、臨床医学における診断と治療の最新の進歩について講義を行う。(オムニバス方式/全15回) (37 伊藤貞嘉/5回) 循環器学、内分泌代謝学、腎臓学等、内科学領域の最新の知見について教授する。 (38 八重樫伸生/5回) 腫瘍疾患の外科治療をはじめとする外科治療の進歩について教授する。 (13 齋藤春夫/5回) 臨床医学における画像診断の進歩について教授する。	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
専 門 学 科 目	基礎・健康開発看護学 セミナーⅠ	(概要) 基礎・健康開発看護学領域において、看護の対象となる人々へ適切な援助を行うためのアセスメント方法、高度先端医療の看護実践に対応可能なエビデンスに基づく看護援助技術の開発およびその検証方法について英文による最新の知見を抄読するとともに、生理学的、分子生物学的手法などに基づいて自ら行った実験データの解釈ができる能力を養う。これら看護研究における理論構築、倫理的問題についても分析、評価することのできる能力を養う。また、英語によるプレゼンテーションなど、国際的に研究成果を発信するための基礎的技術を教授する。指導は当該領域の教員が連携して行う。(オムニバス方式/全15回) (1 丸山良子/5回) 主として呼吸・循環器生理学的手法を用いた看護技術の検証について教授する。 (2 朝倉京子/5回) 看護理論、看護倫理などの評価、開発について教授する。 (32 関亦明子/5回) 分子生物学的手法を用いたアセスメント方法の開発について教授する。	オムニバス方式
	基礎・健康開発看護学 セミナーⅡ	(概要) 基礎・健康開発看護学領域において、多様化した地域社会で生活する人々の QOL 向上のための新たな地域ケアシステム、健康開発に必要な連携や協働のシステム形成、人材育成のためのプログラム開発のできる能力を養う。また、高齢者の中でも認知機能や身体機能に健康問題を持つ、要介護高齢者とその家族について、現代医療の持つ問題点を分析、評価し、開発できる能力を養う。最新の知見を英文で抄読し、自らも諸外国に成果を発信できる基礎的能力を養う。指導は当該領域の教員が連携して行う。(オムニバス方式 / 全15回) (33 齋藤美華/3回) 要介護高齢者および介護者のヘルスプロモーションについて教授する。 (6 末永カツ子/5回) 協働の理念に基づく保健福祉活動の方法論について教授する。 (10 南 優子/5回) 保健福祉活動の評価方法、疫学的分析方法を教授する。 (26 瀬川香子/2回) 健康開発プログラムの開発、展開方法について教授する。	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
専 門 学 科 目	家族支援看護学セミナーⅠ	(概要) 家族支援看護学領域において、家族機能の維持・向上をめざす新たな支援方法を開発、検証し、さらに実践的指導者となるために必要な演習を行う。とくにがん患者や家族の特性、環境との相互作用について国内外の諸理論を国際的な視点から評価、検証することができ、がん患者とその家族への新たな介入モデルの構築、アセスメントツールの作成と活用により卓越した能力の人材を育成する。看護の対象となる子どもと家族の相互的、相補的作用に基づく発達理論を基盤に、とくに学童期、思春期特有の発達課題とその問題について検証できる能力を養う。さらに英文による最新のこどもの精神障害について抄読するとともに、医療者、子ども、家族間の発展的な看護支援方法の分析、評価のできる人材の育成、リエゾン精神看護論の評価検討をもとに精神看護学における新たな人間関係論を開発できる人材を育成する。指導は当該領域の教員が連携して行う。(オムニバス方式/全15回) (① 佐藤富美子/6回) がん患者、家族への支援方法および身体的アセスメントについて教授し演習を行う。 (⑦ 柏倉栄子/2回) がん患者、家族の QOL の向上のためのアセスメントツールの検証について教授し演習を行う。 (② 塩飽 仁/3回) 子どもと家族の相互的、相補的作用に基づく発達理論の検証について教授し演習を行う。 (④ 齋藤秀光/2回) リエゾン精神看護、家族のメンタルヘルス支援方法について教授し演習を行う。 (⑧ 齋二美子/2回) 対人関係論、セルフケア理論の検証法について教授し演習を行う。	オムニバス方式
	家族支援看護学セミナーⅡ	(概要) 家族支援看護学領域において、家族機能の維持・向上をめざす新たな支援方法の開発、検証を行うことを目的に、家族の中でもとくに女性の各ライフスタイルにおける健康問題を分析、評価し、主に女性学、ジェンダー学、性差医療など現代の女性を取り巻く様々な状況を鑑み、独自の視点で女性とその家族の健康に関する新たな支援方法を開発・検証する能力を養う。また、周産期にある女性とその家族のメンタルヘルスについて評価、検証する方法を開発できる能力を教授する。いずれも国内外の英文の文献を抄読し、国際的な幅広い視野を持つ人材育成を行う。指導は当該領域の教員が指導する。(オムニバス方式/全15回) (③ 佐藤喜根子/7回) 周産期にある女性とその家族のメンタルヘルスの評価とその支援方法について教授する。 (⑤ 吉沢豊子/8回) 女性のライフサイクル各期における健康問題の検証法とその家族を含めた支援方法について教授する。	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
専 門 学 科 目	基礎・健康開発看護学 特論	(概要) 基礎・健康開発看護学領域の研究を行うために必要な方法論、情報、最新の知見について教授する。(オムニバス方式/全15回) (1 丸山良子/3回) 呼吸・循環指標を用いた看護援助技術評価の発展的知見について教授する。 (2 朝倉京子/2回) 看護理論、看護倫理における最新知見について教授する。 (32 関亦明子/2回) 細胞レベルから評価する看護アセスメント方法論について教授する。 (33 齋藤美華/2回) 要介護高齢者の介護者支援の最新知見について教授する。 (⑥ 末永カツ子/2回) 地域におけるネットワーク形成、健康開発における発展的知見について教授する。 (10 南 優子/2回) 地域保健福祉活動における疫学的方法論の発展的知見について教授する。 (26 瀬川香子/2回) 健康開発における効果的プログラムの発展的知見を教授する。	オムニバス方式
	家族支援看護学特論	(概要) 家族機能の維持・向上をめざす新たな支援方法の開発を行うために必要な最新の知見について教授する。(オムニバス方式/全15回) (① 佐藤富美子/4回) がん患者に必要な機能障害予防や機能改善に関する最新知見およびがん患者に必要な包括的アセスメントの発展的知見について教授する。 (⑦ 柏倉栄子/1回) がん患者や家族の苦悩を緩和する最新知見について教授する。 (② 塩飽 仁/4回) 子どもと家族の精神力動的理解の最新知見と家族のメンタルヘルス支援、チームアプローチの発展的知見について教授する。 (③ 佐藤喜根子/3回) 周産期にある女性のメンタルヘルスと家族機能発達の最新知見、助産と家族の役割における歴史的知見について教授する。 (⑤ 吉沢豊子/3回) 女性のライフサイクル各期における健康評価と支援方法の発展的知見について教授する。	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
特 別 研 究 科 目	保健学論文研究	(概要) 原則として、学生は基礎・健康開発看護学、家族支援看護学領域の教員の中から一人の指導者につきそのテーマに関する研究の指導と博士論文執筆に関する指導を受ける。 (1 丸山良子) 生理学的手法を用いた看護技術の評価法に関する研究指導を行う。 (2 朝倉京子) 看護の基盤となる理論構築や看護倫理に関する研究指導を行う。 (⑥ 末永カツ子) 地域エンパワメントのための協働の活動方法論に関する研究指導を行う。 (① 佐藤富美子) がん患者への機能障害予防、機能改善に向けた介入モデルの開発、家族を含めた支援方法に関する研究指導を行う。 (② 塩飽 仁) 神経症、軽度発達障害、血液腫瘍疾患の子どもと家族のメンタルケアに関する研究指導を行う。 (③ 佐藤喜根子) 産後うつ病予防、母親役割獲得支援方法に関する研究指導を行う。 (⑤ 吉沢豊子) 女性のライフサイクルにおける健康および家族支援の構築に関する研究指導を行う。	学生ごとに指導教員が担当
専 門 科 目	放射線技術科学コース 医用情報技術科学セミナーⅠ	(概要) 医用情報技術科学の領域を専攻する学生を対象にして、当該領域の最新かつ重要な論文の抄読および自らのデータ提示・分析・検討などからなるセミナーを行う。 セミナーは合同で行い、教員は各専門領域 (MRI 画像化技術、画質評価 (11 町田好男)、画像再構成と処理の理論 (27 小山内実)、核医学・分子イメージングの基礎 (31 志田原美保)、計算機シミュレーションによる神経情報処理機構の解析、医用機器工学 (27 小山内実)) を分担担当する。医用情報技術科学領域の全教員が、それぞれの専門の立場から指導することで、理解の進捗を確認し、正確かつより高いレベルの理解に至るように広範な視点から集団指導する。課題に対して広範な視点から横断的に議論を深め、研究発表の手法ならびに研究者としての素養を身につけるよう指導する。	領域の専任教員が専門領域ごとに分担担当

科目 区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
専 門 科 目	医用情報技術科学セミナーⅡ	(概要) 医用情報技術科学の領域を専攻する学生を対象にして、医用情報技術科学セミナーⅠで得た知識・手法を基礎として、当該領域の最新かつ重要な論文の抄読および自らのデータ提示・分析・検討などからなるセミナーを行う。 セミナーは合同で行い、教員は各専門領域 (MRI 画像化技術、画質評価 (11 町田好男)、画像再構成と処理の理論 (27 小山内実)、核医学・分子イメージングの基礎 (31 志田原美保)、計算機シミュレーションによる神経情報処理機構の解析、医用機器工学 (27 小山内実)) を分担担当する。医用情報技術科学領域の全教員が、それぞれの専門の立場から指導することで、理解の進捗を確認し、正確かつより高いレベルの理解に至るように広範な視点から集団指導する。課題に対して広範な視点から横断的に議論を深め、研究発表の手法ならびに研究者としての素養を確実にものとするよう指導する。国際学会での発表を目指し、英語での発表も取り入れる。	領域の専任教員が専門領域ごとに分担担当
	生体応用技術科学セミナーⅠ	(概要) 生体応用技術科学の領域を専攻する学生を対象にして、当該領域の最新かつ重要な論文の抄読および自らのデータ提示・分析・検討などからなるセミナーを行う。 セミナーは合同で行い、教員は各専門領域 {デジタル撮影技術学、インターベンショナルラジオロジー (12 石橋忠司)、高速 CT 撮影技術学 (13 齋藤春夫)、MR 撮影技術学、コンピュータでの三次元画像処理学、解析技術学 (12 石橋忠司、13 齋藤春夫)、品質管理、保証学、放射線管理測定学 (14 千田浩一)、放射線治療システム学 (15 高井良尋)} を分担担当する。生体応用技術科学領域の全教員が、それぞれの専門の立場から指導することで、理解の進捗を確認し、正確かつより高いレベルの理解に至るように広範な視点から集団指導する。課題に対して広範な視点から横断的に議論を深め、研究発表の手法ならびに研究者としての素養を身につけるよう指導する。	領域の専任教員が専門領域ごとに分担担当

科目 区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
専 門 技 術 科 学 科 目	生体応用技術科学セミナーⅡ	(概要) 生体応用技術科学の領域を専攻する学生を対象にして、生体応用技術科学セミナーⅠで得た知識・手法を基礎として、当該領域の最新かつ重要な論文の抄読および自らのデータ提示・分析・検討などからなるセミナーを行う。 セミナーは合同で行い、教員は各専門領域〔デジタル撮影技術学、インターベンショナルラジオロジー (12 石橋忠司)、高速 CT 撮影技術学 (13 齋藤春夫)、MR 撮影技術学、コンピュータでの三次元画像処理学、解析技術学 (12 石橋忠司、13 齋藤春夫)、品質管理、保証学、放射線管理測定学 (14 千田浩一)、放射線治療システム学 (15 高井良尋)〕を分担担当する。生体応用技術科学領域の全教員が、それぞれの専門の立場から指導することで、理解の進捗を確認し、正確かつより高いレベルの理解に至るように広範な視点から集団指導する。課題に対して広範な視点から横断的に議論を深め、研究発表の手法ならびに研究者としての素養を確実なものとするよう指導する。国際学会での発表を目指し、英語での発表も取り入れる。	領域の専任教員が専門領域ごとに分担担当
	医用情報技術科学特論	(概要) 画像診断装置の技術、画像作成の原理から応用、画質管理などについて学ぶ (オムニバス方式/全15回)。 (11 町田好男/5回) MR アンギオグラフィーやMR パラレルイメージングなどの新しい MR 画像化技術と画像処理技術、基礎技術に基づいた画質評価法などについて学ぶ。撮像の技術的自由度の高いMRIにおいて、撮像法の原理に遡って画像を解釈あるいは考察し、応用上の必要性に的確に応えた検討を行うことを学んでいく。古典的あるいは最新の論文などを教材とした輪講形式を適宜とりいれて進める。 (27 小山内実/5回) 脳の持つ視覚系の情報処理のイメージングデバイスへの応用を通し、情報伝播、細胞間相互作用、可塑性に関して学ぶ。 (31 志田原美保/5回) 分子イメージングとなったときの生体情報の精度の劣化要因になる PET データ中の雑音の定量的把握と、Wavelet 変換やクラスタリングなどによる雑音低減アルゴリズム、及びイメージング手法自身の改善を通しての、より正確な生体機能画像化手法を学ぶ。	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
専 門 科 目	放射線技術科学コース 生体応用技術科学特論	(概要) 各種画像診断法とその評価に関わる技術学、放射線治療における生物学と腫瘍学、放射線検査・治療の品質補償について学ぶ(オムニバス方式/全15回)。 (12 石橋忠司/4回) 医用デジタル画像を用いた映像情報学、ネットワーク構築術、3次元画像処理技術学、モニター品質管理学を学ぶ。医用画像診断学、インターベンショナルラジオロジーの技術学、医用情報科学などに関する研究法を学ぶ。 (13 齋藤春夫/4回) 画像診断に用いられている MDCT の基礎理論、造影剤の使用法の原理、造影剤の副作用の原理と対応法、放射線被曝による障害と被曝低減法などに関する研究法を学ぶ。また、英語による発表の基礎についても学ぶ。 (14 千田浩一/3回) 各疾患の各種モダリティによる画像を実際に研究するとともに、その最適化について指導する。品質管理(QC)品質保証(QA)および放射線管理測定に関する研究法を学ぶ。 (15 高井良尋/4回) ポストゲノム時代に対応した放射線治療における生物学・腫瘍学研究について学ぶ。組織内照射や腔内照射法、コンピュータ制御下の定位放射線治療、強度変調放射線治療などの高精度放射線治療法に関する研究について学ぶ。また、英語による発表の実際についても学ぶ。	オムニバス方式
特 別 研 究 科 目	保健学論文研究	(概要) 放射線技術科学コースでは、原則として、学生は教員一人の指導者につき、MRI 技術、MRI 基礎理論と臨床応用、画像再構成と処理の理論、デジタル撮影技術学、インターベンショナルラジオロジー、高速 CT 撮影技術学、高磁場MR撮影技術学、コンピュータでの三次元画像処理学、解析技術学、放射線診断・治療の最適化、品質管理、保証学、放射線管理測定学、放射線治療システム学に関する実験・研究の指導と、博士論文執筆に関する指導を受ける。同じ領域に所属する教員は、アドバイザーとして実験・研究や博士論文執筆において支援する。 (11 町田好男) MRI の画像化技術、画像処理、画質評価に関する研究指導を行う。 (12 石橋忠司) デジタル撮影技術学、インターベンショナルラジオロジー、コンピュータでの三次元画像処理学、解析技術学に関する研究指導を行う。 (13 齋藤春夫) 高速 CT 撮影技術学とコンピュータでの三次元画像処理学、画像解析技術学(MRI, CT 画像による心大血管疾患の機能解析など)に関する研究指導を行う。 (14 千田浩一) 放射線診断、治療の品質管理、保証学、最適化、放射線管理測定学に関する研究指導を行う。 (15 高井良尋) 放射線治療システム学に関する研究指導を行う。 (27 小山内実) 計算機シミュレーションによる神経情報処理機構(とくに大脳基底核、大脳皮質視覚野)の解析に関する研究指導を行う。 (31 志田原美保) PET 分子イメージングのための新規理論の開発、既存アルゴリズムの改善、および、実働解析システムの開発に関する研究指導を行う。	学生ごとに指導教員が担当

科目 区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
専 門 技 術 科 学 コ ー ス 目	基礎検査医科学セミナーⅠ	(概要) 基礎検査医科学に関して、最新の英文論文の抄読と自らのデータ提示からなるセミナーを行う。特に報告論文に裏打ちされた自らの実験データの解釈の能力の会得を目標とする。主として、以下の教員が担当する。 (16 林 慎一) 分子遺伝学、遺伝子プロモーター解析、遺伝子多型 (28 丹羽俊文) 分析化学と検査法開発 (17 川上和義) 感染症学、特に真菌感染症の防御機構の分子機構 (29 石井恵子) 免疫学、特にパルボウイルス感染症と免疫機構の解析 (18 高橋和広) 内分泌代謝学、特に神経内分泌学、神経ペプチド学、心血管内分泌学 それぞれの専門の立場から指導することで、理解の進捗を確認し、正確かつより高いレベルの理解に至るよう広範な視点から集団指導する。課題に対して広範な視点から横断的に議論を深め、研究発表の手法ならびに研究者としての素養を身に付けるよう指導する。	領域の専任教員が専門領域ごとに分担担当
	基礎検査医科学セミナーⅡ	(概要) 基礎検査医科学に関して、基礎検査医科学セミナーⅠで学んだ基礎的知識を基に、最新の英文論文の抄読と自らのデータ提示からなるセミナーを行う。特に応用的、展開的な研究能力の会得を目標とする。また、英語発表能力を身につけるため、英語による発表とディスカッションも適宜取り入れる。主として、以下の教員が担当する。 (16 林 慎一) 分子遺伝学、遺伝子プロモーター解析、遺伝子多型 (28 丹羽俊文) 分析化学と検査法開発 (17 川上和義) 感染症学、特に真菌感染症の防御機構の分子機構 (29 石井恵子) 免疫学、特にパルボウイルス感染症と免疫機構の解析 (18 高橋和広) 内分泌代謝学、特に神経内分泌学、神経ペプチド学、心血管内分泌学 それぞれの専門の立場から指導することで、理解の進捗を確認し、正確かつより高いレベルの理解に至るよう広範な視点から集団指導する。課題に対して広範な視点から横断的に議論を深め、研究発表の手法ならびに研究者としての素養を身に付けるよう指導する。	領域の専任教員が専門領域ごとに分担担当
	臨床検査医科学セミナーⅠ	(概要) 臨床検査医科学に関して、最新の英文論文の抄読と自らのデータ提示からなるセミナーを行う。特に報告論文に裏打ちされた自らの実験データの解釈の能力の会得を目標とする。主として、以下の教員が担当する。 (19 鈴木 貴) 病理学、特に内分泌病理、腫瘍病理 (20 進藤千代彦) 呼吸器疾患における生理検査学 (30 三浦昌人) 循環器病学、特に不整脈の発生機構と検査法 (21 清水律子) 分子血液病学 それぞれの専門の立場から指導することで、理解の進捗を確認し、正確かつより高いレベルの理解に至るよう広範な視点から集団指導する。課題に対して広範な視点から横断的に議論を深め、研究発表の手法ならびに研究者としての素養を身に付けるよう指導する。	領域の専任教員が専門領域ごとに分担担当

科目 区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
専 門 科 目	臨床検査医科学セミナーⅡ	(概要) 臨床検査医科学に関して、臨床検査医科学セミナーⅠで学んだ基礎的知識を基に、最新の英文論文の抄読と自らのデータ提示からなるセミナーを行う。特に応用的、展開的な研究能力の会得を目標とする。また、英語発表能力を身につけるため、英語による発表とデスカッションも適宜取り入れる。主として、以下の教員が担当する。 (19 鈴木 貴) 病理学、特に内分泌病理、腫瘍病理 (20 進藤千代彦) 呼吸器疾患における生理検査学 (30 三浦昌人) 循環器病学、特に不整脈の発生機構と検査法 (21 清水律子) 分子血液病学 それぞれの専門の立場から指導することで、理解の進捗を確認し、正確かつより高いレベルの理解に至るよう広範な視点から集団指導する。課題に対して広範な視点から横断的に議論を深め、研究発表の手法ならびに研究者としての素養を身に付けるよう指導する。	領域の専任教員が専門領域ごとに分担当
	検査医科学特論	(概要) 検査医科学の研究を遂行するために必要な基礎情報、最新知見について指導する。科学研究の国際化に対応するため、適宜英語による講義を交える。(オムニバス方式/全15回) (16 林 慎一/3回) 分子遺伝学、分子生物学に関する発展的知識について教授する。 (17 川上和義/2回) 分子感染病態学に関する発展的知識について教授する。 (19 鈴木 貴/2回) 内分泌病理学、分子病理学に関する発展的知識について教授する。 (18 高橋和広/3回) 神経内分泌学、神経ペプチド学、心血管内分泌学に関する発展的知識について教授する。 (20 進藤千代彦/3回) 呼吸器疾患の生理検査学に関する発展的知識について教授する。 (21 清水律子/2回) 分子血液病学に関する発展的知識について教授する。	オムニバス方式
	検査医科学実験トレーニング	(概要) 検査医科学の実験を遂行する上で必要な実験手技のトレーニングを行う。 (18 高橋和広) 分子生物学的実験および生理活性ペプチドの微量測定法 (19 鈴木 貴) 病理学検査法、特に免疫組織化学とインサイトハイブリダイゼーション法 (30 三浦昌人) 心筋を用いた生理実験法 (28 丹羽俊文) 分析化学、特にステロイドの微量解析法 (29 石井恵子) 感染免疫学	領域の専任教員が専門領域ごとに分担当

科目 区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
特 別 研 究 科 目	保健学論文研究	(概要) 検査技術科学コースは、原則として、学生は教員一人の指導者につき、分子遺伝学、分子生物学、生化学、分析化学、分子感染病態学、感染症学、免疫学、内分泌代謝学、神経内分泌学、神経ペプチド学、心血管内分泌学、病理検査学、内分泌病理学、分子病理学、呼吸器病学、循環器病学、血液病学、生理検査学、臨床検査学に関する実験・研究の指導と、博士論文執筆に関する指導を受ける。同じ領域に所属する教員は、アドバイザーとして実験・研究や博士論文執筆において支援する。特に、ゲノムレベルの網羅的検査法開発、新規分子診断法開発、病原微生物の感染経路や発症機構の解明および新規診断・治療・予防法の開発、新規病理検査法開発、基礎研究の臨床応用の為の展開研究を指導する。 (16 林 慎一) 分子遺伝学、分子生物学、生化学に関する研究指導を行う。 (28 丹羽俊文) 分析化学に基づく検査法開発に関する研究指導を行う。 (17 川上和義) 分子感染病態学、感染症学、免疫学に関する研究指導を行う。 (29 石井恵子) 免疫学、特にパルボウイルス感染症と免疫機構に関する研究指導を行う。 (18 高橋和広) 内分泌代謝学、神経内分泌学、神経ペプチド学、心血管内分泌学に関する研究指導を行う。 (19 鈴木 貴) 病理検査学、内分泌病理学、分子病理学に関する研究指導を行う。 (20 進藤千代彦) 呼吸器疾患および循環器疾患の生理検査学に関する研究指導を行う。 (30 三浦昌人) 循環器病学、特に不整脈の発生機構に関する研究指導を行う。 (21 清水律子) 分子血液学に関する研究指導を行う。	学生ごとに指導教員が担当